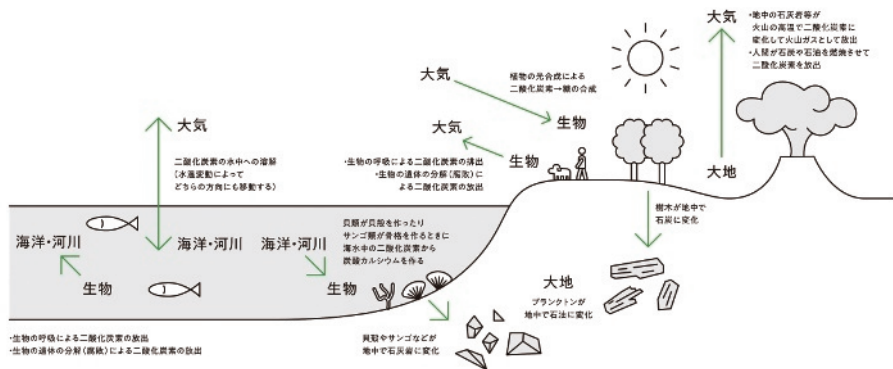


炭素循環ってなに？

昨年のリニューアルで、3階に登場した新しい展示です。

今、地球温暖化問題が話題になっており、大気中の二酸化炭素の量が増えていることが問題だと言われています。大気中の二酸化炭素は増えたり減ったりするのです。では、二酸化炭素はどこからやってきて、あるいはどこへ行ってしまうのでしょうか？

そもそも、今から45億年前、地球ができたかった頃は、地球の大気の主成分は二酸化炭素だったのだろうと考えられています。金星の大気や火星の大気は今でも二酸化炭素が主成分です。しかし現在の地球の大気には二酸化炭素は少ない割合でしか存在しません。もともと地球大気にあった二酸化炭素は、長年にわたる生物の働きによって、地層の中に蓄えられてきたのです。有孔虫という種類のプランクトンや貝類、サンゴ類の死骸は石灰岩に変化します。昔の樹木は石炭に変化し、プランクトンや藻類などの生物遺骸が石油になったと考えられています。



飯山 青海(科学館学芸員)